

2023年4月より、てがたんは開催時間を2時間に戻し、定員20名の申し込み制で開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、5月13日(土)で、テーマは「ヨシ原で子育てする水鳥たち」です。ぜひご参加ください。5月2日(火)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回のとがたん下見は、5月7日(日)です。

## 4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 博物館駐車場東側 → じゃぶじゃぶ池付近 → けやき広場
- 観察日時と天気：2023年4月8日(土) 10:00～12:00 曇り
- 参加人数：11名(大人9名、中学生以下2名)
- 市民スタッフ：6名(石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1人(岩本二郎)

## 観察した生き物の記録

\*は4月2日の下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ/カモ科：カルガモ\*、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、コサギ/クイナ科：クイナ、ヒクイナ、オオバン/タカ科：トビ/チドリ科：コチドリ\*/キツツキ科：コゲラ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ\*/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン/外来種や家禽：コブハクチョウ(カモ科) ドバト(ハト科)

【爬虫類】トカゲ科：ヒガシニホントカゲ\*/カナヘビ科：ニホンカナヘビ 【両生類】アマガエル科：ニホンアマガエル(声)

【昆虫】バッタ目：ヒシバッタ、キンヒバリ/カメムシ目：サクラフシアブラムシ、ムネアカアワフキ、ヨコヅナサシガメ/コウチュウ目：フタホシテントウ、コガタルリハムシ、モモボトカミキリモドキ/ハエ目：ハグロケバエ、ホソヒラタアブ、ヒゲナガクロハバチ/ハチ目：オオスズメバチ、コマルハナバチ/チョウ目：ミノガのなかま、シャクガのなかま、ツマキチョウ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ジャコウアゲハ

【クモ類】ジグモ科：ジグモ(巣)/ハエトリグモ科：イナヅマハエトリ

【植物】草の花 ヒガンバナ科：ハナニラ/イグサ科：スズメノヤリ/イネ科：スズメノテッポウ、スズメノカタビラ/キンポウゲ科：タガラシ/フウロソウ科：アメリカフウロ/マメ科：コメツブツメクサ、シロツメクサ、スズメノエンドウ、ヤハズエンドウ/バラ科：オヘビイチゴ、ヘビイチゴ/カタバミ科：カタバミ/スミレ科：スミレ/アブラナ科：アブラナ、ナズナ、タネツケバナ、コイヌガラシ、イヌガラシ/タデ科：スイバ/ナデシコ科：ノミノツヅリ、オランダミミナグサ、コハコベ/ムラサキ科：キュウリグサ/オオバコ科：タチイヌノフグリ、フラサバソウ、オオイヌノフグリ/シソ科：キランソウ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/サギゴケ科：サギゴケ、トキワハゼ/キク科：ヒメジョオン、ホソバノチチコグサモドキ、オオジシバリ、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ/スイカズラ科：ノヂシャ

木の花 アケビ科：アケビ/カツラ科：カツラ/マメ科：ハナズオウ/バラ科：ヤマザクラ、ユキヤナギ/ニレ科：ケヤキ/アサ科：ムクノキ/ツバキ科：ヤブツバキ/アオキ科：アオキ/ガマズミ科：ニワトコ

# 4月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「桜に集まる生きもの」でした。2023年度のてがたんでは、1本の桜を観察対象に選び、そこに生息する生きものの季節変化を追います。4月はその始めとして、観察対象木以外の桜にも目を向け、年に一度の開花期に合わせ、桜に集まる生きものを広く観察しました。



今月の案内人  
石原直子さん・伊東茂子さん



①羽化後のジャコウアゲハ。



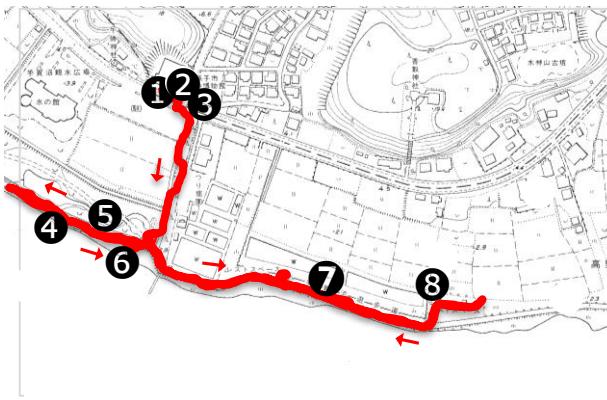
②ジャコウアゲハのさなぎ。



③鳥博3階にとまっていたスズメのつがい。



④木のとっぺんでさえずっていたメジロ。



歩いたルートと観察した生き物



⑤木のうろにひそむナメクジ。



⑥サクラフシアブラムシによる虫こぶ。



⑦脱皮直後の、体が黒くなる前のヨコヅナサシガメ。



⑧サギゴケの群落。

## 今月の鳥 ウグイス (スズメ目ウグイス科)

この鳥のさえずりは春を告げるものとして、桜の開花とともに、日本人に広く親しまれてきました。気象庁は桜の開花前線と同様に「ウグイスの初鳴き前線」も発表しており、関東では2月の下旬頃から聞かれるようになります。ウグイスは、メスよりオスの方が体が大きく（メス：体重 10.0-13.7g、オス：体重 14.8-22.3g）、一夫多妻で、交尾をした後も、オスは別のメスとつがうためにさえずり続けます。さえずりの聞かれる時期が終わるのは遅く、手賀沼周辺では8月になってもまだ聞かれます。



さえずるウグイスの雄